

しっかりとした理解のもとに試合をコントロールするために、試合の前までに**競技規則（2023-24適用）**をもう一度読み返しましょう。

特に、条文前の「**サッカー競技規則の基本的考え方と精神**」については、時にチーム指導者間で読み合わせを行うなど熟読し理解した上で試合に臨んでいただくことをお願いします。

眼鏡はラバー製ゴーグルタイプのみが装着可能ですが極力コンタクトレンズ装着願います。指輪、ネックレス、ブレスレットの類いも不可です（競技規則第4条1「すべての装具品は禁止」）。

各ピッチには競技会派遣の上級審判員などがサポートとして配置されていますので、不明な点や解釈を曖昧にせず積極的に助言を受けてください。

主審・補助審判員は以下の事項に留意し、選手が正しい競技規則の下、より公平で公正な条件で試合に臨めるように努力していただくようお願いいたします。

主審

- 補助審判員と協力してゲームコントロールをしましょう。
- 常に足を動かしピッチ内を走り、争点との距離感（10～15m）を意識しましょう。
- 縦への動きだけでなく、横も意識しピッチ内をまんべんなく動いて監視することに努めましょう。
- 周囲から判定に信頼を得るためにも、争点を近くから監視できるよう走りましょう。
- 負傷が生じた場合はその程度を判断して必要に応じてプレーを止めましょう。特に脳震盪の疑いがある場合はプレーの続行よりも負傷者の救護を優先願います。
- タッチライン・ゴールラインを確実にボールが超えたかどうか、しっかり目視し確認した上で判断し、決して憶測、ベンチや選手からのアピールで判断しないようにしましょう。
★そのためには、縦方向だけでなく横方向への素早い移動も意識しピッチ内を広く動けるようにしましょう
- 確信の持てない事象にはあえてジャッジしないことも大切です。例えばゴールラインをボールが確実に超えたかどうか自分のポジションから見えなかった場合など、周囲の雰囲気やゴールを認めたり、自分のポジションから微妙な状況でのオフサイドの判定（疑わしきは罰せず）をしたりすることの無いようにしましょう。そのためにも近くに寄ることや幅を取る意識が重要です。
- ファールの事象を復習し7項目においては、「不用意（NoCard）」「無謀（Ycard）」「過剰（Rcard）」の判断が適切にされるように努力してください（昨年大会においてはかなり悪質な反則に対し懲戒罰が無かったことで抗議を受けています）
- ハンドの反則について十分に理解していない方も見受けられますので、競技規則を確認し適用を誤らないようにしてください。
- 警告**（遅延、異議、意図的なピッチからの退出、FK・CK・スローイン時の距離、繰り返し、反スポーツ的などの各行為）・**退場**（DOGUSO（ハンド含む）、著しく不正、咬むつば、乱暴、2度目の警告など）など懲戒措置をとることが重要です
- 選手が小学生だからなどといった忖度せずに規則に則って必要な懲戒を下すことも選手育成の一環と考えてください。（必要に応じて説明を加えるなどの工夫をお願いします）
- アドバンテージの適用やクイックスタートを妨げないようにし、スムーズなゲームコントロールを心がけましょう。（再開位置を厳格にしすぎてクイックさせない審判員をたまに見かけますが、あくまでも反則された側が優位に始められるタイミングを尊重してあげるべきです。）

- フリーキックマネジメント・PKマネジメントなど、各種再開における手順を事前にしっかり確認しましょう（やりかたがわからない人は試合前にサポートに教えを乞ってください）。
- ★審判員がフリーキックとなる反則が起きた場所に速やかに移動し、守備側選手を離れるよう促し離れた後、その選手が再びボールに近づいた場合は警告です。またクイックスタートをしようとしているところに近づく行為も警告の対象です。
- ペナルティマークからのキックの進め方についてしっかり予習することが必要です。特に副審がないことによる「ボールがゴールラインを越えたか」「キッカーがボールを蹴る前にGKがラインを離れた」などの見極めを1人で監視するためのポジションを意識しましょう。
- 同点の場合10分（前後半5分インターバル無し）の延長戦になりますが、競技の進行上時間に制約があるので、飲水等のためにベンチに戻るのは許容しますがピッチから出たりしないよう監視が必要です。
- 速やかにコイントスをしてキックオフできるよう促しましょう。
- 延長でも決着がつかない場合は、PK戦になりますが延長戦同様速やかに始められるようマネジメントをお願いします。
- コイントスは2回（1回目ゴールを決める。2回目先攻後攻を決める）です。

補助審判

- 常に試合を監視し、競技規則に則って試合をコントロールできているのか確認しましょう。主審が競技規則の適用を誤っていると判断した場合には声を出して主審を呼ぶことも必要です。（競技規則適用の誤りは時に重大な事態を招きかねませんので気づいたときはしっかりとした対応をお願いします）
- 特に、アウトオブプレーから再開する際に再開方法の誤りに気が付いた場合は、再開する前に主審を呼び止めることも重要です。（よく見かけるのが、ドロップボールによる再開の場面で別の方法を以て再開してしまった。またはドロップする側を特定しなかったなど）
- 選手交代は自由ですが、希に交替ゾーン以外から出入りしようとする選手がいますので交替ゾーンを促してください。また、ゴールキーパーの交替はアウトオブプレーになったときにゴールラインから退出したのを確認後に入場させてください。
- 交代時のピブス受け渡しはフットサルと違ってマストではありません。
- ベンチコントロールを行い、ベンチ内の指導者や交代要員の選手が暴言や執拗なアピールなど責任ある行動を取らないなどの行為があった場合には、主審に報告し懲戒措置をとってもらいましょう。
- この場合主審が、誰がその行為を行ったか判断できていない場合も考えられるので、その行為を行った者を確認しておきましょう。誰なのか判断がつかなかった場合は監督に懲戒措置を与えます。
- また、最近観客席からの罵声や得点した際などの異常な盛り上がりが問題視されています。度が過ぎると感じ際はチーム指導者に適切な措置をとってもらえるよう指摘願います。
- テクニカルエリアが表示されない場合でも、タッチラインから約1m以内に入ったままや極端にハーフウェーライン方向に立ちっぱなしの指導者には、戻るように注意をしましょう。
- ベンチ入りできる指導者は3人以内、ベンチからの戦術的指示ができるの都度は1名であり、立つ立たないにかかわらず、同時に2名以上のコーチングが著しい場合は注意することが必要です。

打合せ

●試合開始前までに、本部またはその他の場所にて補助審判と打合せを必ず行うこと。

★ゲームコントロールを確実にするために試合前の打合せは必須です。以下の項目についてそれぞれの役割分担についてしっかり打合せした上で試合に臨んでください。

◇前後半終了時アディショナルタイムの伝達方法

◆伝達のタイミング

◆補助審の行動（立ち上がって1歩前に、など）

◆どのように伝達するのか（指を立てる or エア文字を書く、など）

◇PKの時の主審と補助審の位置と役割・合図の確認

◆試合中のPKにおけるそれぞれのポジションとマネジメント

◇試合の記録についての確認（得点・警告・退場など）

◇負傷事故発生時の対応

◇交代の手続きと用具の点検

◇主審が競技規則の適用を明らか間違えていたり、時間管理を間違えていた場合の対応について。◇ベンチの管理・・・など

その他

●2024年7月18日付けで、協議会から用具の緩和に関する通達が出ていますので、趣旨に沿って過剰な対応をしないように願います。

●希にソックスが破れてすね当てが現れていることがあります。接触した際に相手選手に怪我させてしまう可能性がありますので、用具チェックの際に気がいたら履き替えさせるか、すね当てが隠れるような履き方をさせてください。

●最近、セパレートタイプのソックスを着用する選手が出てきているが、用具の緩和には該当しないので色違いの場合は履き替えるなどの対応が必要です。

●担当する試合の開始30分前にはメンバー表がそろっていますので、本部からメンバー表と公式記録用紙が挟んであるバインダーを持って試合開始時間が遅滞することのないように準備願います。また、終了後はバインダーと公式記録用紙（審判員、両チーム代表者の確認サインを忘れずに）を記入の上、速やかに本部に報告願います。